

じゅこう

第75号
(通算415号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

・7月16日(水)
10時～11時半
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室

・7月24日(木)
19時～20時半
・参加費1000円



お釈迦さまには前世の物語がたくさんあります。そうした物語は「ジャータカ物語」と呼ばれ、イソップ物語をはじめ、各地の物語に影響を与えています。この「ジャータカ物語」を題材として、この度カルタが制作されました。名付けて「ジャータカルタ」です。カルタの制作者の方が言うておられました。カルタを

開発するために、お釈迦さまの前世の物語である「ジャータカ物語」を読み進めていると、そこには大切なことがたくさん説かれていることに気がきます。

- ・人に優しくすること、嫌がることはしないこと、見返りを求めないこと、善い行いをする事。
- ・悪い行いはやがて自分に返ってくる事。

「ジャータカ物語」に登場するサルや象などの動物たち、王さまや商人、木や花。色々な存在が私たちに伝えようとしていることは、「わたしの生き方」だったのです。今月はカルタにもある「葦の茎」というお話を紹介します。

昔々、ハスの花が咲いている美しい池がありました。その池の周りにはアシ(葦)

で覆われていました。

しかし恐ろしいことに、池の中には水を飲みにきた動物を水の中に引き込んで食べる恐ろしい鬼がいたのです。鬼は毎朝早くから隠れて獲物を狙っていました。

ある日、池に八万匹のサルの群れがやってきました。のどが渇いたサルたちが水場を探す中、サルの王さまはいち早く鬼の存在に気がきました。王さまは鬼に気を付けるよう仲間に注意をうながし、「どうすればみんなが安全に水が飲めるだろう」と考えます。

そして王さまは鬼に捕まれないように、池から少し離れて水を飲めるような方法を思いつきました。なんとサルの王さまは、呪文を唱えてアシの茎をストローのように空洞に変えてしまっ

たのです！

八万匹のサルたちは池を取り囲んで、少し離れた岸辺から水の中にアシの茎を入れて、いつせいにチューチューと水を飲みました。

池の水は見る見るうちになくなり、池の真ん中にはハスを頭にのせたまま、立ちすくむ鬼の姿がありました。こうしてサルたちは十分水を飲むと、ニコニコと引き上げていきました。アシの茎が空洞になったのは、この時からといわれています。

「欲しい」という心は、時にその人をつき動かす原動力となります。一方で、欲によって見えなくなるものがあるのも事実です。他者の痛みや幸せが見えなくなるばかりか、自分にとって本当に大切にすべき物事も、欲によって見失うことが私たちにはあります。

阿弥陀さまも私たちの心をよくよくご存じです。欲に負けてしまうことも、大切なことを見失うこともある私たち。だからこそ、阿弥陀さまは私たちを放ってはおけないのです。

十方微塵世界の

念仏の衆生をみそなはし

摂取してすてざれば

阿弥陀となづけたてまつる

親鸞聖人『浄土和讃』



御文章に聞く(第68回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

一切女人章(五帖第十七通)
それ、一切の女人の身は・後生を大事におもい・仏法をとうとくおもふ心あらば、なにのようもなく・阿弥陀如来をふかくたのみまいらせて、もろもろの雑行をふりすてて・一心に後生を・御たすけ候えと・ひとのまん女人は、かならず極楽に往生すべきこと・さらに疑あるべからず、かようにおもいとてののちは・ひたすら阿弥陀如来の・やすく御たすけにあずかるべきことの、ありがたさ・またとうとさよとふかく信じて、ねてもさめても・南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏と・申すべきばかりなり、これを信心とりたる・念仏者とは申すものなり、
あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていききたいと思います。
近代ヨーロッパの生命観の中で何代にもわたって育てられてきた現代人は、近代的な合理主義の枠でしか宗教を考えられなくなってしまうました。「後生」とは「死」の先に何かあるかを問題とするのではなく、今の「いのち」が何に連なるのかを教える言葉だったのです。
本願を仰いで、浄土を目指して生きる者は、後に必ず阿弥陀仏の国に生まれて、この上ない幸せを得ることが出来ます。その幸せとは、究極の真理をさとる、なかく生死の迷いを離れ、貪り、悲り、執を離れて、無限の「いのち」を得て、りなく人々を導く存在になります。同時に、私たちの生き方が、ことごとく真理に反し、我執にふりまわされていることを知らしめます。このように「後生」という言葉は、私たち自らの誤りを知らせ、克服させ、真理にかなった「いのち」のあり方を目指させようとしています。

仏教語辞典



恋人や家族のような近い関係の人に、互いに執着すること。恩を感じ愛し合うことで、それに縛られ自由を失ってしまう。この執着から離れることがさとりの道と説いている。

恩
おん
ない
愛

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。表面には突然に「ジャータカルタ」の内容を掲載いたしました。何故かといいますが、その作成者の一人である橋本健人氏が、少し先にはなりませんが、令和八年二月八日(日)「浄覚寺仏教文化講演会」にご出講いただくことになりました。楽しみながら仏教を伝えるということを、「カルタ」というツールを使って取り組んでおられます。当日もみんなでカルタをしてみようと思っています。ぜひ今からご予約ください。
六月一日に開催しました「浄覚寺バザー」ですが、その後にもご購入いただける方がおられ、合計5,150円となりましたこと、ご報告させていただきます。有難うございました。(釋法道)

浄覚寺の公式LINEにぜひご登録ください。
デジタルで「じゅこう」をお届けします。



行事案内

日時・七月二十日(日) 十時～十六時
行事・浄覚寺こども会「夏のつどい」
場所・長原浄覚寺
内容・別紙参照
(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

孟蘭盆会のご法要に併せて門信徒総追悼法要を厳修しております。ご法要の中で故人のご法名を拝読し、偲ばせていただきながら、この度のご法要をできるだけ身近なものに感じていただければと思っております。別紙申込書にて期日までにお届けいただきますようお願いいたします。

